

「かかし」音楽リズム

子 子 ミ
文 修 ト
合 田 井
堀 村 村

自由表視としての音楽リズムが重要なことは云うまでもないが、既に形のできたものを子どもに興えることも重要である。その際の問題は既成の形をどのようにして与えてゆくかということである。このような観点から三才、四才、五才の子どもに、「かかし」という新曲の同じ題材のものを与えて比較してみた。各年令の組の担任の先生にその様子をきいてみる。

堀合（三才児 森の組）

なぜ、「かかし」と題材に取入れたかと申しますと、「かかし」は大体秋の題材よろしいのですが、三組が同時に同じ曲を初めて取材するには、今まで一度も幼稚園でした事のない曲を撰択しないと、だれか知っていたら又聞いてもその効果はないのではないかとこの話合で、今年の新曲を扱うという事になり撰択しましたが適当なのがなく、かかしがない事もないだろうという事でこれを取材いたしました。この点よく御諒解いただき御批判いただきたいと思えます。

私の組は一番やさしい組で三才の中でも年少の方です。

大体、音楽に併せて動作をするという事だけがこの三才では目的で、家庭からでてきたばかりですから、遊びの中に音楽をあてはめていくように努めてきました。

今日やったものは、かかしの中でも二つだけの動作を取上げて三才なりに遊びのうちに表現しました。

まだこの雰囲気に入れないお子さんが一人いて、いつも恥しがつてやらず今迄部屋でした

時に一度やった事があるだけで、いくら誘導しても仲々やらない。

今残されている事は、遊びの中に音楽を流して幼児の（三才児の）もつ表現を引きだしそしてそれを指導していきたいという事で、この一人も早く皆の仲間に入り、リズムとたのしい遊びをしたいとねがって努力しようと思っております。

村田（四才児 林の組）

林の組（四才児）は、一年幼稚園を経験した十五人のところへこの四月二十一人が新しく入ってきた組である。

遊戯をするのに、いつも子どもの身近なもの、経験のあるものを題材にして、すぎなうに、すぎな方向に思うままにさせることから入りますが、今年、一人でははづかしいくてやらない、という人や、経験がないためすぎないようにする、ということがむづかしくていやだというような人が出来ないようにするため、参加するというのはじめのきっかけをのがさないように、丸くなって、みんなで一緒にあるく、簡単な動作をみんなでする。というのを主にして始めからやってきまし

た。

一ヶ月半位たってから、丁度幼稚園になれて面白くなりかけてきた時期であり、すきなように、ということをし、どういうことをしてもよい、というようにとったのか、わざわざ人の邪魔をしてあるく人が多かった。それを又円形にもどすちょっとと出来る、という時期があったが段々になれあきている。

かかしは四才児なりに出来上ったものに近づけるように努力した。

歌をうたう場合、小さい人はうたうだけというより、手を叩いたり首を振ったり自然に動作を伴うものなので、そこをつかんで或る形に近づけるのは余り苦労がなく出来た。

けれどこういうことは、ほんの十分位で出来るものではなく、段々につみ重ねていくものなので、これからもっと子どもに適したように整えることも、発展させていくことも出来ると思う。

村井（五才児 山の組）

私の組はやはり九月から三月に生まれた年少の五才児です。

初めに基礎の動作をいたしました。歩く事

も円で歩いたり、ばらばらに自由の方向に歩いたりすることの他に、先頭の子供が好きな方に自由に歩くことを今学期になってから始めましたが、喜んで致しております。走ることや跳ぶことはピアノをよくきいて、音の変化によってその様な動作をいたしました。

右の三つを適当に組合せて応用とし、そこへ自由表現を入れてみました。（例えば和音で行って、止まる時に好きな表現をする等）

はじめは一人で自由にして、次に二人づつ組んで、一人の子供のした通りの表現を後の子供が真似をしました（先頭を交替する）

今度はやはり二人組ですが一人の子供のした表現と全々違うことを、後の子供がする事に致しました。そして各々の表現が違いますし、友達の表現をみる事も大切なので、皆にしゃがんでもらい、三組から五組位づつ交替して見合いました。和音ばかりではつまらぬので、今度は兎と亀、雀の学校等、子供達がよく知っている曲で、しかも基礎動作の含まれている編曲を使用しました。

次に今日の「かかし」に這入りましたが、最初は子供達が思った通りを自由にしてみました。五才ですのこちらが申しません

でも既にかかしと雀とに分れて、自分の好きなものになって遊んでおりました。大勢でぶつかりますので、三つ位のグループに分れて一つづつしてもらいました。その後で私も入れてもらって、「皆とても面白そうだったから、今度は先生が考えたのをしてみましようか」と言っはじめて子供達と一諸に既成の形にもっていきましました。丁度子供達のした自由表現を一寸まとめたが既成の形でしたから苦労なく出来たわけです。一方から言えば既成のものを与えるには、子供達の自由表現に近いものを選ぶことが大切と言えらと思います。

次に「かかし」を応用して、一つの遊びに発展することになりました。先生の方で曲を適当にひいてやり、皆、一人一人が、百姓になって耕したり種を蒔いたり、芽になったり雀になって飛んで来て、お米を食べたり、かかしになって雀を追ったりして遊びました。

次に自分のなりたい役になり、先生と相談して場所を決め、それぞれの場所にすわって自分が出る番の時に出て遊びました。お百姓が多過ぎて、かかしが多すぎて、全体のバランスがとれていなくても、この場合そんな事にはこだわら必要はないと思います。（完）